

到達目標

- ・食事に集中し、自分から食べられるようにする。
- ・自分から着替える意識を持つ
- ・時間排泄とともに、排尿のサインの定着

指導方法

- ・声かけ、介助を行いながら自分から食べる機会を多く持たせる。
- ・補助をしながら、自分で着替える経験を多く持たせる。
- ・時間排泄に取り組み、必ずサインを出してから排泄に向かわせる。

課題

- ・少しずつ取り組み、進歩もみられることから、健康で毎日登校してくる事がとても大切。

排泄

「到達目標」・尿意サイン(胸を拳でとんとたたたく)で表す事ができる。・自分でホタンを押して水を流す事が出来る。「指導方法」・トイレサインが出た時は、必ずトイレに連れて行き、サインを確実な物にする。・ホタンを指さしたり声掛けしたりする。「課題」・尿意や便意は意志表示してくれるが、こちらが気づかない事もある。・自分に構って欲しい時などトイレサインをすることもあり、まだ確実ではない。

食事

「到達目標」・自分の使う食器と宗広君の使う食器を理解して正しく配膳できる。・フォークで刺したり、スプーンですくったりできる。・友達や教師と一緒に楽しく食事ができるようにする。「指導方法」・担当と一緒に配膳する活動を毎日継続して行う。・課題別学習の時間にもフォークやスプーンを使った活動を取り入れる。・はじめの10分は食事の支援をなくし、一人で食べるよう応援する。・声掛けをして楽しい雰囲気を作ったりする。「課題」・フォークで食べ物を刺せる角度や力が不十分である。スプーンの使い方は上手になってきて好きな物だけすくったり、嫌いな物をふるい落としたり出来る。・場所が変わったり、介助者が慣れなかったりすることで食事が難しい事もある。どこでも誰とでも食べられる事が今後の課題。

靴の着脱

「到達目標」・自分の力で出来る事を増やす。「指導方法」・靴の着脱に落ち着いてゆっくり取り組めるように、時間を多く取る。・集中できる場所や、かかとを引っ張るリングなどの道具を用意する。「課題」・靴を履くまでの一つ一つ動作(靴を出す→足を入れる→かかとのリングを引っ張るなど)は声掛けでできるようになってきており、順番も少しずつ定着してきているが、一人での着脱はまだ難しい。

衣服の着脱

「到達目標」・自分の力で出来る事を増やす。「指導方法」・首の部分を外し、腕の部分は自分で外すなど、介助を半分にして応援する。「課題」・介助者がやりやすいように手足を動かしてくれる。着脱に集中できるようにする。

・身辺自立に関しては声掛け指導を行うことで有る程度行うことができる。

・衣類の着脱について

「あれとって」「上着脱いで」「ズボンはいて」などの声掛け。指示しながらするとスムーズに行える。根気強く同じリズム、同じ順序での継続指導が大切だと思う。一連の活動の中の一部として活動を繰り返している。その結果、声掛けすることが減り、「衣類を渡されると着替える」と理解しているようである。脱いだ衣類も自分で後片付けをしようとする姿勢がみられる。反復練習で身に付けさせる。体で覚えさせる事を行っている。何回か挑戦してできなかった時は、職員の手を掴み「できないからやってください」というようなアピールをすることもある。

・排泄に関して

サインで訴える。後処理ができない状況。サインを出してトイレに自分で行き用を足すまでは出来るがそれ以後は支援が必要。トイレトペーパーの巻き取り方を指導している最中であるが、途中まではスムーズでも遊びになってしまう事が多い。自分での後処理には相当な時間を費やすと思われる。

・歯磨きや洗面について

水を好むが顔、特に目や鼻の辺りに水をつくことを嫌う。「自分でやるように」と指示をすると頬にだけ水をつける。・歯磨きはずいぶん座らせて行う事で拒否をする事がすくなくなり、「自分でする」という意識が芽生え始めてきた。毎日行う同じ行動なので、順序・方法・手段を変えずに反復継続活動を行っている。体で覚えることが大事。うがいに関しては上達した。当初は水を口にふくむと飲んでしまっていたがそれがなくなった。水を含んで後に後頭部を軽く押して吐き出させるように継続支援した。

・ブラッシングは上下左右にただ口を動かしている状態。力の調節が難しくブラシはすぐに痛んでしまう「口開けて」「口をいーして」の声掛けをして行うようしているが「いー」の口形は難しい。

ルーティンワークとして

- ・朝、登校後教室で靴を開け、連絡帳を出す
 - ・給食前のテーブルふきと食後トレイを下膳する活動を教師と一緒にこなっています。
 - ・介護者への協力をする姿勢を褒めています
 - ・くつを履く時
 - ・トイレでズボン上げる時など
- こちらも身辺自立につながると考えてます。

- ・更衣は半介助
- ・排泄は誘導にて自力排泄
- ・歯磨きらしき動作はあり
- ・便意あり、スタッフの元へ来て知らせる。

排泄は定時排泄で紙オムツ使用、頻度も少なくなり、1日3回程度、おもらしはほとんどみられなくなり、オシッコをためてトイレで出す事が定着してきている。サインは見られるが、大便の時は口元目元に変化があり、教員が気付いて成功したこともある。ひきつづき定時排泄をおこない、手すりにもたれながら後方介助による立位での排尿が定着するように取り組む。

着脱(衣服)については、全介助であるが、ことばがけを受け止めて足を上げたり出来る。引き続き取り組む様にしている。

- 〈ねらい〉・家庭・栄養士・担任間で互いに確認・連携し、健康で楽しい給食を進める。
- ・写真カードなどを使い、やることの見通しを持ち、活動に気持ちを向けられるようにする。
 - ・サインで伝えられるものを増やす。
 - ・身の回りの事で、自分で出来る事を増やす。

〈指導内容〉・食事：スプーンやフォークの使用に慣れ、自分から食べる。お手拭きを仕舞う。友達の机を給食後、片付ける。

排泄：サインや写真カードでトイレに行きたい気持ちを伝える。自分でズボンやパンツを下ろし、終わったら流すなど、自分で出来る事を増やす。自分で手を洗い、大人と一緒に10数えながらハンカチで手を拭く。

着脱：部分介助で、自分で脱ぎ着できることを増やす。脱いだものを袋に入れ、籠を所定の位置に戻す。裏返しの服を大人と一緒に直す。

- 〈課題〉・給食では、食べ初めを早くする。
- ・サインで伝えられたら、自分でトイレに向かう。

トイレ面

(目標)トイレで排泄をする。

(記録)冬の寒い時期を除いて、布パンツで生活してきた。学校と家庭でトイレに行く時間の記録をつけた。学校生活では、ほぼ決まった時間にトイレに行く事でトイレ(様式)で排泄することができた。排泄は、教師と一緒にトイレに行き自分ズボンと下着を脱いで、便器に座り排泄が終わったら立ち上がり下着とズボンを上げる事が出来る。仕上げは教師が行っている。排泄終了後「ジャー」と言葉をかけると水を流す事ができる。

着替え面

(目標)「脱ぐ」「着る」をスムーズに行う。

(記録)丸首かぶり服は、首元を掴んで一人で脱ぐ事ができる。着る時には、衣服のすそを広げて渡す事で一人で着る事が出来る。靴は、左右は間違えるが、一人で脱ぐ、履くを行う事ができる。課題は、衣服・ズボンの前後を分かると良い事と自分の靴を選ぶ事が出来るが良い。

- ・手洗い・・・レバー式で自分開閉して手を洗う事が出来る。→自分でタオルでふくように
- ・着脱・・・半介助で着脱する。(前後、裏表は確実ではない)→意識してたたむ・片付けるように
- ・トイレ・・・ガマン出来なくなるとトイレの写真カードを持って教師に訴える。トイレに行くが、自分でズボン、下着を脱ぐ事が難しい。体が固く、ヒザぐらいまではズボンや下着をおろせる。上げようと意識しているが介助なしでは難しい。→せっぱつまっている時は、とにかくじぶんで両手を使うように介助するとヒザぐらいまでは一度に脱ぐ。余裕のある時に一枚ずつ両手を使って下ろすように介助。あげる時は右手前を左手後ろを持って一枚ずつ上げるように介助。
- ・食事・・・自立、スプーンや自助具付きはしを使って食べる。

今年度(小2・夏ごろ)18ヶ月の節目を越えた様で、場面の見通しがつくようになりました。その後、自我の伸長がめざましく何かと自己主張(とりあえず何でも反抗!?)するようになりましたので、現在は本児の心理状態にそった課題設定と対応を考えています。

目標:

きがえ:とりかかりを手伝うと、自分で上衣、下衣の脱ぎ着ができる。衣服が濡れていたり、汚れていたりして不快な時大人に訴えられる。

食事:かんで、お口の中で丸めて飲み込む習慣をつける。自分でスプーンですくって食べられるようになる。

トイレ:活動の切れ目での定時排泄に慣れる。尿意を身振り、発声、トイレの写真等で伝える事ができる。

方法:

- ・本児(子ども達)から見て、自然な生活の流れに即して、日常的に指導する。
- ・その身辺処理を終えた後、楽しみな活動が見通せるよう、写真カードや言葉掛けでガイドする。
- ・本人の主体性、自尊心によりそう関わりを心がける。まず、自己主張するので、一旦それを認め、ほめたり、励ましたり、友達を意識させたりして本人の自発性を促すようにする。

<p>目標)・教室間や階段等をわずかな支援でいどうすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱で、主体的な動作のできる部分を増やす。 ・排泄の意志やサインや仕草、表情で伝える。 ・提示排泄、立位での排泄が安定してできる。 <p>指導方法)・声掛けや励ましで、袖口に手を持って行くなどの補助や誘導を行い、動きや定位を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄前に写真カードを提示したり、一緒にサインを行う。
<p>毎日の決まった時間、決まった方法で行うことであれば自分なりに観察して行うことができる。例えば、食事、食事の入ったカートを押す(手伝う)。</p>
<p>衣服の着脱、食事、排泄とも部分的に支援を必要としていましたので、できることは時間をかけてもできるだけ自分の力で取り組み、力の維持、継続を目標としていました。手元を見ることで、出来ることもあったので、言葉掛けや時には手添えをしながら手元を見るよう促して、支援していました。又、難しい課題については、教師の支援を受け入れスムーズに身辺処理、基本的な動きが出来るような働きかけもしていたと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・排泄・・・尿意や便意を知らせて、自分でトイレへ行く。トイレットペーパーを取り、拭く。 ・衣服の着脱・・・できるだけ手伝わなくても着替えられるようになる。服の順番や前後を間違わないようになるよう支援する。
<p>ほぼ全介助のため協動作ができるよう促している。上着を着る時は手を袖に入れると自ら袖を通せる時もある。食事は好きなこともあり、スプーンはわりと持っていられる。ただ、気持ちが乗った時でない、持ち続けられない。スプーンを水平に保てないのでこぼさないようでの介助が必要で、食べたらず手をはなし、床に落としてしまうことも多い。トイレでは手すりにつかまってるズボンの上げ下ろしはできる。</p>
<p>目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできる身のまわりのことを増やす。 <p>取り組み:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣の時衣服をたたんでかごに入れる。 ・スプーンを使って食事をする。 ・その他の学校生活全般を通じて、身の回りのことを丁寧にを行うよう指導している。
<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて出来るだけ少ない支援で着替える。 ・尿意をマカトンサインで伝える。 ・マナーを守り、落ち着いて食事をする。
<p>着替え・・・手足を上げたり、入れたりする協力動作があり。ズボン、パンツは途中まで自分で上げたり、下げたりできる。</p> <p>排泄・・・便座に座る事への抵抗感はまだあるが、時々リラックスした表情をみせながら便座に座り、排泄することがある。2～3時間間隔で排尿。</p> <p>給食・・・移行期。深皿を使用しオストロンで口に運ぶ練習をしている。好きな物は自分からすくって食べる。苦手なものは「これを食べてからパンだよ」というように言葉かけすることで食べることができる。汁物はむせないようにトロミアップ使用。マグカップを使い、少量ずつ飲ませるように配慮する。</p> <p>歯磨き・・・口を開けられるようになり、歯ブラシを噛むことがすくなくなってきた。うがいは難しい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱では、教師が手や足を動かしやすいよう、衣服を持つ場所を工夫すると教師に身をまかせて、スムーズに着替えることが出来ました。 ・食事の面では一人で、スプーンを持ち、食べることが出来ることを目標にしました。スプーンを持ち、一人で食事ができました。(一部介助が必要な時もあります)。 ・排泄は定時排泄が出来ていました。便が固く、排便には時間がかかりました。腹筋が弱く、息むことが苦手な様子。
<p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・着脱は一人で出来ることを増やす。 ・排泄は定時排泄を定着させる。 ・食事は一人で食べるようにする。 <p><指導方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕の辺りまで服をたぐり寄せるなど、少しの支援で着脱ができるようにする。 ・言葉掛けで自らトイレに行くようにする。 ・スプーンを持つことや食器を支えること言葉がけをしながら、一人で食べる練習をする。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・着脱は一人で出来ることを増やす。 ・排泄は定時排泄を確立する。 ・食事は最後までスプーンですくって食べる。

トイレについては、自立していないが、サインを出して、こちらに知らせることが出来る。たまに、失敗もある。着替えについては、介助しているが協力動作が多くなってきた。この点については、担任した時は介助に対して、全て手宇高するような動きなのであったが、2年目に入り、本児も担任とのコミュニケーションがとれ、担任という限定した人間との関係では登校、着替え、トイレという一連の流れで行動することが出来るようになってきた。その他としては、車イスに乗る場面、ステップを自力で直す、ベルトを自分でとめようとする(とめられないが)などの動作がある。この車イスでの動作については練習で意識して出来るようになったことである。

便座に座って定時排尿ができる

・定時排尿を行い、紙パンツからパンツへの移行トレーニングをする。定時にトイレに行き、トイレトチェアーか水洗トイレで排尿している。一日中パンツだけで過ごせる日があったが、朝の会の途中で自分で笑いながらいきんで出すことがあったので、(3日連続で続く・・・退屈、教師の気を引くため)それ移行は朝の会が終わるまでパッドを付けている。現在は朝の会の途中でいきむことはない。
・衣服の着脱の一部分を自分で行う。衣服の着脱の協力動作はできている。ファスナーのつまみを教師と一緒に持って開け閉めしたり、上衣の袖口を持って脱ぐ練習を行った。自分での開閉や引っ張って脱ぐことが(教師がその場所、部分まで手を持って行く)できた。
・スプーンを持って、自分ですい口に運ぶことが出来るようにする。食事の最初の5口程度を自分ですくう練習をした。詳しくは[質問6]へ

(到達目標)

- ・スプーン操作が上手くできるようになる。
- ・立って担任が靴を押さえている状態から脱ぐ。履く時は自分で靴に足を入れる。
- ・自分から袖に手を通す。顔を出す。ズボンに足を入れる。手で持って上まで上げる。
- ・決められた場所へ運ぶ。

(指導方法)

- ・介助皿(すくうときスプーンがあたる部分が深くなっている物)の位置を微調整し、上手くスプーンですくえるように配慮する。
- ・衣服、靴の着脱は途中まで担任が手伝って、そこから一人で言うように促す。自分から出来ない時は、少しずつ援助を増やし、最小限の援助でできるようにする。
- ・運ぶ時は短い距離から始めて、だんだん距離を伸ばしていく。

(課題)

- ・身辺自立できる部分をさらに広げていく。

目標

- ・「おいで」「体育館に行こう」などの指示を聞いて、四つん這いで体育館へ移動する。
- ・あいさつや呼名のとき、相手のまねをしたり身振りや発声で応じたりする。

指導方法

本児の移動しやすい距離(5メートル程度)の距離から言葉掛けをしたり、手招きをしたりする。毎日の学習で繰り返し指導し、分かりやすい賞賛を繰り返す。

日常生活の指導、自立活動の教育課程である(来年度は、あそびの指導も取り組んでいく予定である)。

①<排泄>トイレの前まで車イスで移動し、教師の誘いかけに尿意が有る時には、自分で立ち上がり、便座まで歩いて行って、尿意が無い時には、背を向ける動作で伝える。車イスでトイレの前まで移動すると、尿意が無い時には、車イスのベルトを締める。動作で伝える事もある。排尿したくない、終わった時に手を2回合わせる動作で伝える。

(指導方法)オムツやパンツなどの具体物、トイレのマークを示してトイレに行くことを伝える。教師と手をつないで、便座まで歩いて行く時に、人や物に手を伸ばす時には、「オシッコしてからだよ」と言葉掛けしながら、軽く手を添えて伝えている。→定時排泄指導であるが、ほぼ毎日トイレで排尿できる。学校ではパンツを着用している。

(課題)排泄したい時に、お腹を2回たたくなどのボディサインに繋げていきたい。

②<衣服の着脱>かぶり服は頭を通す、そでを広げるなどの教師の少ない援助でおこなうことができる。

- ・着る時に頭を通す援助では、目の辺りまで通すと、脱いでしまう。その下まで、通すと自分で頭を通すことが出来る。
- ・脱ぐ時には、衣服の下のを支え、「脱ぐよ」と言葉かけをすると、両手をあげる等協力動作ができる。

③<ズックの着脱>教師が「ズックをはくよ」と言葉かけをして、目の前でズックを示すと、落ち着いている時は、自分でズックにつま先を入れて、教師がズックを支える援助をして、かかとをおろしてはくことができる。教師がズックを支えると自分で脱ぐことができる。

(課題あ)下駄箱からズックを出す。着脱がわかり自分で昇降口のいすに座る、ズックをみて履くなどの力に繋げていきたい。

④<歯磨き>電動歯ブラシを使用すると腹書きかけを受け入れやすい。噛んでしまうことがあるため教師が歯ブラシをもって磨いている。

<来年度は、給食での食事用具の準備など、給食の指導も日生でと考えている>

衣服の着脱などは、ファスナーをはずし、2割くらい脱がせてやると、そこからは器用に脱げるようになってきた。靴なども同じだが、手伝ってあげるラインを明確にし、「ここからは自分でがんばろう！」という流れを積み重ねること。そのための時間を確保し、「待つ」姿勢を持つことも大事にしている。排泄では、最近になって便器に座っても出ない時は、「もう出ない！」と立ち上がろうとしたり、出た時は「もう出たよ！」と立ち上がろうとするようになった。生活の中で流れがよく分かっているものは次の行動に移ろうとするようだ。これは特に終わった時のサインをだすような指導をした結果ではなく、本人が生活の中で成熟してきたことから獲得したもののようなのだ。

(到)・衣類(前後)、靴(左右)等を正しく身に付ける。

(指)・衣類に付いているボタン等で、前、後ろを意識させる。

・声掛けにより着衣の違いを意識させ、正しく直させる。

衣類、靴を正確に身につけさせる事は、ボタン等による意識付け、声かけ等。両面で行ったが、それ以前の問題として落ちてついて着替えに取り組む課題がまだクリアできてきないので、到達点の目標が高かったのかもしれない。声掛けすれば、その都度正しく身に付けることはできました。

到達目標

・支援を受け入れながら基本的な生活習慣を身につけ、自分でできることを増やしていく。

指導方法

着替え

・全体的に支援が必要だが、部分的に自分でできるところがある。支援を受け入れて、協応動作をすることができる。

・ズボンを途中まで引き上げる。

・上着の袖を途中まで通すと、自分で通す事が出来る。

・靴を一人で脱ぐ事が出来る。

食事

・一人ですくって食べる事が出来る。

・先曲がりスプーン、固定皿を使用。

・食べ物はすくいやすい大きさにカットしておく。

・刺して食べる事は難しいので、一緒に刺す支援が必要である。

排泄

・定期的にトイレに連れて行けば、ほぼ失敗なく排泄できる。タイミングがずれたり、体調によっては失禁もある。

・トイレサインが出てきている。(股を触りながら「うー」と声を出す。)

課題

・着替え食事などをすることがわかり、自らもやろうとするので協応動作や支援を受け入れる事も出来る。ただ、眠い時などは教員を叩くなどの行動が見られる。排泄についてもトイレに行く事を嫌がり、手すりに掴まったり教師を叩いたりして抵抗する事がある。

●トイレサインは出す。トイレは自分で出来る。「ズボンを下ろして」「パンツを下げて」「座って」と声かけをしながら、用をたしている。立って小用をすることもあるが、まだ性器に手を添える事が難しい。大便も時々するが、後のお尻の処理はまだ難しい。

●服の着替えは前後の判断が出来ない。時に、間雲に頭を腕の部分から出そうとしたりする。まだ、頭を通す部分、手を通す部分などの区別が出来ていない。また、集中力のない時には、シャツをズボンのようにはこうとすることもある。

●靴を履く時は、場所が人の往来が多い場所なので、靴を見て履くという事をせず、他を見ながら履いているので、時間がかかり、反対に履いても意に介さない。マジックバンドを締めるのに、おざなりにつけるので、ひっぱりながらつける練習をその都度している。

●ハンガーを掛ける事がなかなか難しい。ひもをバーに掛けたり、取ったりもすぐにはできない。練習により大分できるようになってきている。

●歯磨きは自分でではできない。磨こうとすると、歯ブラシを噛んだりする。うがいが出来ない。うがいをさせようすると水を飲んでしまう。「ペッするよ」など声をかけながら水を含ませると少しずつ吐き出す事が出来る様になってきた。

更衣

(目標)自分で着替えが出来る様になる。

(指導)先生に手伝ってもらいながら袖に自分で腕を通す練習をする。声かけ、好きなおもちゃを励みにする。首までいった服を自分で引っ張る。

(課題)遊びたいおもちゃが側にあると、更衣よりも先に遊びたがる。更衣に集中する。

排泄

(目標)立位排尿を定着する。

(指導)トイレの横に衝立を置き、トイレに集中できる様にする。ズボンを脱ぐ時に、自分で足を上げる様に声かけをする。

夏はパンツ着用。

(課題)おしめをなるべく汚さず、トイレでの排泄ができるようになる。定時排泄を心がける。

食事

(目標)自分でスプーンで食べる。

(指導)すくいやすい補助皿を使用する。スプーンを下から握る練習をする。教員が手伝い、成功体験を増やす事で自分ですくおうとする気持ちを高める。(カットアウトテーブルを使用。イスに傾斜を付けて、体が後ろに反り返らないようにする。給食に集中できるようにする。)途中でこぼしても、自分ですくえた時は褒める。

(課題)体調により、食欲にムラがある。自分で食べられそうな時は、その気持ちを尊重し自分で食べるようになる。自分ですくうことを定着する。

・「衣服の着脱」・・・バランスを保てるよう椅子を利用。脱ぐ事が半分まで補助するとあとは自分で脱ぎ服を手渡すことができる。着る事は自力では難しいが、介助や声掛け応じ、かぶる、入れる、上げる伸ばすなど協力的に体を動かし応じる事ができた。

・「排泄」・・・3～4時間保ことができた、声掛けにうなずいたり、自分からサインで知らせる事も出来た。高等部になって立ち便器で排尿できるようになった。

・「食事」については後の設問に記載。

・「その他」・・・喉が渇いた時は自分からコップを持ってきて要求する事が出来る。

着替え

・ストレッチ素材等の素材やTシャツ等脱ぎやすい衣服を使用し、自力で衣服を脱ぐことができる。また、腰部まで下着やズボンを引き上げる事ができる。

・自分で靴の着脱ができる。

排泄

・定時排泄から排尿感覚の意識を高め、尿意をサインやカードで伝える事ができる。

食事

・フォークの使用に慣れる。

・スプーンを投げない。

〈目標〉

・自分出来る事を増やす。

・みんなと一緒に行動する。

〈指導方法・内容〉

・日常生活のあらゆる場面で、いろいろな経験をさせスキルを身に付けさせる。

・「自分でする」という意識を向上させる。

・朝・帰りの会等で仲間の動きを理解させ、自分から行動できるよう促す～動きにつられてだけでなく「起立」だけの声掛けでも立つ場面があった。

〈具体例として〉

・ズボンの後ろにリングをつけて、はきやすくする。

・ハンカチの携帯～はじめは無理かと思われたが、次第に慣れてきて、ハンカチで手をこすり合わせる様にして手を拭く動作も見られた。

目)各々の活動の意味を理解して協力動作をする。

その上で、更衣や食事動作の技術向上をはかる。

指)場所の設定

更衣についてはマークをつける(マークのところを持つ)服型をおいて意識させる。

担任教師間で手順や言葉を出来るだけ統一する。

家庭と連携を取り指導する。

課)次の活動を見通した動作の開始、理解

〇〇するから、くつをはく

体育だから着替え など

〈目標〉

- ・見通しを持って身の回りのことを自分で行う力を付ける。
- ・友達と協力して生活する。

〈指導方法と課題〉

着脱、食事、排泄等で1対1で対応をしています。

・着脱：着替えの入った袋を渡すと自分から更衣室へ向かうことができます。一人で着替えはまだ難しいですが、声掛けや支援でズボンやTシャツ、トレーナー等を手でひっぱり脱ぐことができます。靴は、支援がないとはけません。また座ると、すぐ靴を脱いで仕舞います。

食事：好きな白いごはん等はスプーンですくって口にはこべるようになってきましたが、まだ手づかみが多い。

排泄：本人の意思表示を待ちながらも、様子を見て促しトイレへ連れて行く様にしています。もらすことはありません。排便は股間を軽く叩く様にして伝えられることも増えています。

★排泄

〈到達目標〉トイレに行きたい時サインを出す。〈指導方法〉◎サインがあったら必ずトイレに誘う。・行ったばかりでも出ることがある。・サインは出したが誘うと嫌がる、というときもうまく工夫して必ず連れて行く。・何かの理由で嫌がっている(遊びが気になる、〇〇先生でないのが嫌等)、本当は排泄したい時には、座れば落ち着き、排泄できる。・座らせてもすぐに立ち上がり全く排泄行動を受け入れない時は、サインが実は別の意思(水が飲みたい、こっちを向いて欲しい等)だった判断して排泄行動を中止し様子を見る。〈課題〉ほぼ毎回サインが出る様になり失敗はあまりなくなった。・サインが出ても、すぐ排泄につながるのは半分くらいである。・サインが「トイレに行きたい」か「水を飲みたい」かんど見分けが付かないことが多い。

★食事

〈到達目標〉・介助用先割れスプーンを使い、自分ですくったりさしたりして食べる。・少量の水や牛乳を、自分でコップを持ち、こぼさず飲む。・牛乳パックでこぼさず飲む。〈指導方法〉◎できるだけ自分で食べられるよう工夫する。・始めに必ず給食全体を示し「どれから食べる？」と問いかける(意欲を高める)・意思表示のあったものから介助用の器(吸盤つき)に入れ、介助用先割れスプーンを握らせて、自分で食べるのを見守る。・フォークでさした方が食べやすい食材は、一口大にきっておく。さすのが難しければ手を添えて一緒にさす。・パンは、力の加減ができず握りつぶしてしまうので一口大ずつトレイに置くが、ときどき丸ごと渡し様子を見る。・コップに入れる水などは少量ずつにする。・牛乳パックを渡し、様子を見る。ストローを探し出して入れようとしたら、ストロー口をめくるよう誘導する。〈課題〉・スプーンですくって食べたり、フォークでさして食べることができるようになった。・ストローがさせるようになった。・コップの傾け加減がわからず、ごく少量でないといこぼしてしまう。・牛乳パックで飲む時、鼻づまりなどで息継ぎがうまくできないと、口から牛乳があふれてくる。

★着脱

〈指導目標〉自分のやりやすい着脱の方法がわかり、嫌がら脱ぎ着しようとする。〈指導方法〉◎周りに気をひくものがない(手の届かない)場で、声をかけながら、手を添え、励ましつついっしょにやる。・上衣脱：片袖を抜いてあげると、あとは自分でやることが多い。・上衣着：頭にかぶせ、手先を誘導すると自分で通す。・ズボン脱：ももまで下げて、腰をおろさせ、自分でズボンを引っ張り足をめくよう誘導する。・ズボン着：腰を下ろして、ズボンに両足を入れて、立たせる。前の部分をもあわせて、引っ張る上げる様誘導する。〈課題〉・着替えの後に楽しいことが待っているなど、着替えようという気持ちを高め、集中させられれば、どんどんできる。・ふざけてしまい、集中できない時がある。・ボタンにもまだ興味を示さない。

①:1学期、②:2学期、③:3学期

〈内容〉基本的生活習慣

〈目標〉①ズボンのホックの扱いに慣れる。②登下校時の荷物の整理を、自分から行う。③登下校時の荷物の整理を、自分から行い、決められた時間までに終える。ハンガーに上着を掛ける。身近な人に、適切な方法で挨拶をする。

〈指導の方法手立て〉①両手を使うことを意識づける。②チェック用の写真カードを個別のホワイトボードに貼り、済んだ物のカードをはずすことで、本人がチェックする。全部終えたら「がんばりカード」にシールを貼る。③チェック用の写真カードを個別のホワイトボードに貼り、済んだ物のカードをはずすことで、取り組むべきことを確認する。タイマーを使い、時間を知らせる。・上着の襟中央に印をつける。援助しながら、手順を伝え、徐々に援助を減らす。

・動作、発声等、挨拶の仕方を伝え、教師と一緒に取り組む。

〈内容〉朝の会・帰りの会

〈内容〉給食

〈目標〉①両手を使い、食器を持ったり、押さえて食べる様にする。②主食、主菜、副菜をバランスよく食べる。

〈指導の方法手立て〉①教師が手を添えて、食器の持ち方を伝える。②初めの盛りつけは少量にし、全部食べ終わったら、お代わりをするようにする。

〈内容〉係活動(ゴミ捨て係、給食:牛乳運び、配り)、掃除

〈目標〉①決められた、役割を意識し、自分から取り組む②③決められた、役割を意識し、自分から取り組む

〈指導の方法手立て〉①係活動、給食の準備、片付けの活動等、写真等で視覚的な支援を行う。活動の手助けをする用具を用意する。②③活動内容、手順等、写真カード等で視覚的な支援を行う。活動の手助けをする用具を用意する。

- ・衣服の着脱時、服を引っ張ったり腰を浮かせたりなどの協力ができる。
- ・定時排泄やトイレサインは確立していない。

(目標)・生活のリズムを身につけ、健康、安全な生活

- ・自分から参加、行動できることを増やす。
- ・衣服の着脱等自力で出来ることを増やす。
- ・排泄の意を知らせる。トイレでできること

(方法)・保護者からの現状を問い、希望から出来る所から、すこしずつ取り組む。

(コンデショニング、あいさつ、水分摂取、給食、排泄、衣服等の着脱、片づけ等)

目標・・・衣服の着脱は一人で福を脱ぐ。上着を着る時は自分で顔や手を出す。靴の履き替えでは、立って靴を脱いだり、履いたりする。食事面ではスプーンを使って、自分で食べる。排泄では定時排泄ができる。

指導方法・・・衣服の着脱では裾をもってやるなどして、できるだけ少しの介助でできる部分は自分でさせ、できたことはほめる。靴のはきかえは机や台に手をおき、バランスの援助をし、立って履き替える様にしている。食事面では、好きな食べ物などは手で食べようとするので、スプーンを持って食べる様介助する。排泄は、登校して着替えたあと、給食後、下校前にはトイレに行くことを習慣づける。

課題・・・食事面では気が散って食べることに集中できない。スプーンを持つ手がふるえる。自分でスプーンで食べる機会を少しずつ増やしていきたい。トイレは雑誌を持っていくことが多く、雑誌がなくてもトイレに行ける様取り組む。

給食

(ねらい)・大人と一緒に給食の準備、配膳活動に取り組む。

- ・フォーク、スプーンを使って食べる。

(指導内容)・お盆運び

- ・セルフ方式での給食の準備

- ・好きな物を中心にフォークやスプーンの使用の練習

- ・片づけ、ゴミ袋運び

(課題)食べることに集中し、スプーンやフォークの使用に慣れる。

排泄

(ねらい)着替え、排泄時のズボンの上げ下ろしなど少しの支援でできるようになる

(指導内容)椅子に座ったり、壁にもたれたりして体を安定させ、声かけや簡単な支援をする、(朝、帰り)

(課題)集中して取り組める様な場面の工夫をしながら、支援を少なく出来る様にする。

着脱は、上着やズボンなど少しの介助で自分でできる(自分が脱ぎたいと思った時)靴下も上手に脱げる。着る場面では、介助が必要だが、こちらの助けに対し、体を合わせることが出来ている。食事は専用の器、スプーン、フォークを使い、一人で食べている。量や大きさについては支援が必要。排泄はトイレでの排泄が定着しつつある。排泄は、トイレでの排泄が定着しつつある。立っても、座ってもできる。すぐに出なくても、排尿しようという気持ちがあり、時間を掛けて排尿する。便秘気味であるが「うーん」と声を出し、便意を伝え、トイレで排便できる。

衣服や靴の着脱においては、協力動作を行うことができる。靴箱への靴入れやパンツを膝上からあげることを練習中である。自分で行おうとする意識をより強く持たせ、介助を減らして行ける様にすることが目標である。

排泄面では、自分からサイン(股間に手を持っていく)を出すことができるが、サインが出ずに失敗することも多い。サインを見逃さず、「サインを出す→トイレで排泄する」ことを習慣づけていけるように取り組んでいる。

食事は、特殊フォークを使用して食べている。好きな物は自分で積極的に食べようとするが、好きではないものは自分からは食べようしないので、教師が食べさせている。好きでない物は、空嘔吐きをして食べにくいときが多く、好き嫌いを減らし、何でも食べられる様にしていくことが課題である。

衣服の着脱

・上着は、頭に乗せられると自分で引っ張り、襟ぐりから頭を出してから、袖通しができる。ズボンは、教師と一緒にウエストから腰まで下げたり、膝から腰まで上げることが出来るを目標にして取り組んだ。教師が言葉かけをすることで一緒に取りかかれる回数が増えてきた。しかし、コミュニケーションが取れていないと聞き入れてくれないので、スムーズに行動が取れるようになるには一苦労だった。

排泄

・2時間おきの時間排泄で指導の取り組んだ。家庭で朝、どのように済ませてきたか、登校時にはどうだったかで、その後、タイミングを狙って言葉をかけたり、表情を一時も逃がさないで児童の表情から「これは！」と思う時にトイレに誘った。成功すると喜ぶ表情が見られるようになってきた。

食事

・口の中の食べ物全部飲み込んでから、次の一口を食べるという目標を立てて取り組んできた。言葉かけをよく聞いて食べるようになってきた。

(目標)〈食事〉部分的に介助を頼みながら、スプーンの操作性を高める。フォークの扱いを身に付ける。

〈排泄〉尿意・便意を人に伝えられる様にする。(トイレサインを確立する)

〈着替え〉着脱の意識を持ち、できるところは自分でする。

(指導方法)〈食事〉肘の位置を意識させたり、スプーンの柄に印を付け、正しい位置で握れるよう意識させたりする。

〈排泄〉下腹部を叩いて知らせることができるよう意識させる。

〈着替え〉両手を使って着脱させるよう意識させる。

(評価・課題)〈食事〉・スプーン操作では、スプーンの形状や目印を意識して握ったり、握ったスプーン的位置の修正を行うこともあたりする為、握り直しの指導が少なくなりました。細かな野菜をお皿などからすくい上げるスプーンそうだやお代わりの意思表示はしっかりできました。

・フォークの操作では、教員と一緒にフォークの柄を持ちパンや大き目の食材などを刺す練習を行いました。食材を刺して食べようとする意欲もあるので、継続して取り組み確かなものにしていけたらいいと思います。

・食事マナーでは、たまに「いただきます」の前に食べようとするがあるので、「まだだよ、いただきますしてから」と声かけをすることは継続しています。

〈排泄〉・排尿は教員がパンツの前を開けて行っています。排尿が終わると振り向いたり、パンツをに手をもっていったりして知らせます。将来的には、片手で物につかまり身体を支え、もう一方の手でズボンのチャックなどのそうだが出る様になると良いですね。また、「トイレ」への声かけを少なくすることで、自分から出すトイレサイン「下腹部を叩く」「トイレに入ろうとする」の意思表示がはっきりしてきています。排尿間隔のコントロールも自分でできるようになってきたようです。

・排便では様式トイレに自分から入った時には便座に座らせ、声かけをしたり、下腹を押して排便を促しています。これからも「出る・出ない」にかかわらず、学校では洋式トイレに入ることは排便サインであることを意識させていければいいと思います。また、縦に動きを止め考え込む排便への様子にも注意して見ていく必要を感じました。

〈着替え〉・長袖シャツの着脱では、脇を開く運動をしたり、襟首や裾をもたせ引き上げ動作を支援したりすることで、後は一人で脱ぐことが出来ました。着ることも、長袖の裾を差し出すとの前のチャックや前ボタンを外してやると、テーブルに手をつきながらズボンを下ろした後、椅子に座り足の操作でズボンを一人で脱ぐことができるようになりました。ズボンを引き上げ履こうとする動きもよく出るようになってきました。

・補装靴の着脱では、声かけだけで一人で脱げる場面が多くみられる様になってきました。靴の締めベルトの操作も速くなってきました。(周囲を気にしてしまうが)

・朝の準備は担任の声かけによって、おおむねリュックの荷物を出すことが出来ますが、大好きな友達や先生の顔が見えると周囲に気をとられ、所定の場所に入れることができないときもあります。環境にかかわらず、朝の支度ができるようになることが今後の課題になります。

・排泄は声かけによって集中することができるようになり、それほど時間を掛けずに行うことができるようになりました。サインは排泄の大・小とも出すことが出来、精度もあがりました。ただし現在、排便には下座を使用している為に排便の時はサインから実際に出るまでの時間が短いので注意が必要です。

・食事は指示が出るまで、待てる習慣が身に付きました。

・現在、変形皿とスプーン・フォークを使用していますが、手で食べようとする時があるので、その時は声かけをし、スプーンなどを使用し食べる様にさせています。

・食べ始めて自分の好きなおかずが食べ終わってしまうと、他人のおかずに出してしまうことがあります。食器を押さえて食べる目標は達成できませんでした。来期の目標の一つになります。

・朝や帰りの会での呼名は手を挙げて返事ができるようになりました。

・朝の歌も歌うことは出来ませんが、体を揺するなどして一緒に楽しんでいます。

(目標)・基本的な生活技能を高める。

(指導方法)・自分の身の回りのことを介助者の手を借りながら行わせる(靴、衣服の着脱)〈排泄、学習の準備、後かたづけ等〉

・学校生活のリズムを身につけさせる。

(課題)・声かけをして、学習の準備や片づけを行わせる。

着替えでは①上を脱いたら上を着る②立って着替える③洋服の前後、左右がわかる④洋服たたみを目標とした①は声かけで出来る様になったが、一年指導しても声を掛けないと上下とも脱いでパンツ1枚になりこともある②はバランス良く片手を机につけてできるようになったがズボンの前後がうまくいかない時は座り込んで直す③声かけや印を見せたり、ボタン等に触って確認することで自分で直すことができる。④細かくたたくことは手指の操作上難しかった。袋の中に洋服を詰め込むことはできる。

〈目標〉身だしなみを意識できる。
〈方法〉・食事の時の口の周り、手の汚れを拭くことができる。
・食後の歯磨き
・排泄後の手洗い

などの習慣化

・トイレサインの学習
・画面の切り替えとして、遊んでいる物を置き場を決めた所に自分で置くことで気持ちを切り替える練習をしている。
・着脱衣の時に言葉がけをし、意識をもった協力動作から自分でできることを練習している。
・繰り返し一緒に行うことで、理解し、自分でできるように言葉がけをしながら取り組んでいる。
・まわりの刺激を整理した空間作りにも努め、集中できるようにし、その時間を伸ばしている。

・衣類の着脱はほぼできるが、前後が逆になったり、裏表を直せなかったりする。
・スプーンを使い、一人で食べるが、時間がかかる。
・定時排泄であるが、トイレに行きたくない時は手を横に振り「ノー」のサインを示すことができる。
・靴は脱げるが、はく時に支援が必要。

〈目標〉(床に)座って靴の履き替えをする。自分から着替えに向かう。尿意や便意を伝えトイレで排尿便をする。
〈指導方法〉・周囲の刺激が少ない状況で落ち着いて靴の履き替えに取り組む。
・着替えの1つ1つの活動に対して、励ましや評価(ほめる)をして、意欲を持たせる。
・タイミングをみてトイレに誘う言葉かけを行い反応を見る。
〈課題〉・人の往来が激しい玄関では、注意の転導が見られ、靴の履き替えに大変時間がかかる、玄関に人が少なくなると履き替えに気持ちが向く。脱ぐことは自力で、履くことは半介助、靴の出し入れはできる。
・着替えには自ら向かえる。脱ぐことができる。(着ることは)はくことは、半介助でできる。周囲の人の動きは目に入ると着替えに向かえにくい。励ましや評価の言葉かけてがんばることができる。
・提示排尿には応じる。誘いの言葉かけには手振りや態度で拒否を示せるが、自ら尿意等を伝えることが少ない。自分か尿意、便意をはっきりと伝える支援ツールが必要。排尿しそうな時でも、拒否することがある。

到達目標

・少ない言葉かけで、朝や帰りの活動(着替え、ランドセルの準備や片づけ、朝の課題学習など)が順序よくできる。
・少ない補助で給食時の活動ができる。[エプロンの着脱・配膳(牛乳配り)摂食(マイスプーンでの食事)・片づけ]
・サインやカードで、簡単な意志を伝えることができる。

指導の手立て

・朝や帰りの活動では、「1タオル・2ファイル・3ランドセル・4・・・」等、リズムカルにうたいながら楽しい雰囲気の中で活動を促すようにする。
・給食では、食器に左手を添えてスプーンですくって食事ができるように、手本を示しながら楽しい雰囲気の中で指導する。拒否行動が出やすいので、あくまでも無理はせず気分を変えて再チャレンジできるように時間を置く。介助なしにひとりでスプーンですくって、上手に口に運べた時は大いに認め称賛する。
・排泄指導については、定時排泄を基本としながらも自分でサインで訴えたときは、すぐ対処することでサインのよさを実感できるようにする。

課題

・1体1の対応においてはある程度効果があがったが、待たされたり自分が注目されていなかったりすると、悔しがって問題行動が出やすい。

〈到達目標と指導方法〉・着替えに集中して自力で着替える。
 ・衣服の前後に注意して間違わずに着替える。
 ・靴の脱ぎ履きを自力でする。
 ・自力でトイレでの排泄をする。
 ・言葉がかけがなくても自分から手を洗い、タオルで手を拭く。
 〈現在できること〉・着替えの袋をかごに出し入れできる。着替えの開始には言葉掛け(着替えよりも先に「やりたいこと」があったり、周囲の動きや音に気を取られる為。)、**「着替えようね」**が必要。
 ・**「やりたいこと」**を心の支えにしながら、最後まで身辺整理をすることができるようになってきた。
 ・トイレのサインはジェスチャー(お股をポンポンとたたく)で知らせて、出せている。失敗はほとんどない。
 ・自分から手を洗うようになったが、タオルでふくのは言葉掛けが必要。

①到達目標・・・着替えが少しでも介助の手を少なく、自分で出来ることが増える様にする。
 ①指導方法・・・教師の手で生徒の足を軽く叩き、足を自分で上げさせる。
 ②到達目標・・・教師の介助で嫌がらずに口を開け歯磨きをすることが出来る。
 ②指導方法・・・教師の歯を毎日磨かせて、生徒の歯を磨く抵抗感を少しでもなくす。磨く前に磨く場所を指でつついて声かけをして抵抗感を無くしてから磨いてあげる。

・服の着替えやコートの着脱は、教師が部分けいに支援をしたり、声かけ、指さしをしたりしてできることがおおくなってきた。
 ・食事は自分で食べることができるが、フォークやスプーンを利用して食べている。
 ・排泄は本人の気持ち(出る、出ないという意味表示)を確認しているが失敗することがある。

・くつをはくことができる。くつしたものはくことができる。
 ・ずぼん、ぱんつを脱ぐことができる。
 ・ずぼん、ぱんつの前後ろを補助するとはくことができる。
 ・シャツ、セーター、トレーナーは首を通すと、手をそでに入れ、着ることができる。
 ・帽子を脱いだりかぶったりできる。
 ・トイレはサインを出して、行くことを知らせる。
 ・小便は一人で様式に座ってする。
 ・大便も一人で様式に座ってするが、お尻は拭けない。介助が必要。
 ・給食はおはし、スプーンを使って食べることができる。
 ・ジャンパーのチャックを開閉できる。
 ・チャックを合わせることは難しい。
 ・スナップをとめたり、はずしたりできる。
 ・歯磨き、自分ですることができる。仕上げは介助者がする。
 ・うがいがうまくできないので、練習中。
 ・手洗い・・・石けん、水で遊んでしまうことが多い。
 ・手ぬぐいで自分の手をふくは練習中。

〈目標〉・落ち着いて着替えに取り組むことができる。
 ●ズボンやパンツを自分で上げることができる。
 ■靴下を自分ではこうとすることができる。
 〈指導方法〉・着替えの場所を固定することによって、落ち着いて着替えに取り組める様になった。
 ●ズボンやパンツのはじとはじを持つ様に補助をすると、力強くひっぱって上げることができた。
 ■かかとのあたりまでは、教員が手伝っている。「ひっぱれ、ひっぱれ～」と声をかけると、自分で靴下を持ってひっぱることができた。
 〈課題〉靴を自分ではくことができるようになること。

日常生活全般については、落ち着いて行動することを目標にしている。興味がある物を見つけた時や気分が高揚している時には、物や人に手を出し、強くつかむので、手が届く所に物を置かない様にしている。教職員が必ず側につき、その都度言葉がけをし、気持ちを落ち着かせる様にしている。食事は自分でスプーンを持って食べる、摂食障害があり、ストローで水分補給ができないので、以前はチューブを使って摂取していたが、現在は自分でコップを持って飲む練習をしている。トイレは定時排泄である。将来的にはトイレサインを出すことを狙っているが、現在はトイレの有無の問いに答えることを目標にしている。トイレに行く時に問いかけて反応を待つようにしているが、今のところ、行きたい時には自分でトイレの方向に向かって歩く状態である。衣服の着脱等については自分である程度脱ぐことができるので、服を着たり、靴を履いたりする時に「ここに手(足)を入れて」と言葉がけをして行動を促している。

着替えは少し協力動作がある。半分脱がせてあげたり、半分着せて上げれば最後は自分で袖をぬいたり、通したりすることができる。

トイレはトイレバッグ(いつもトイレに持っていく、タオルやパッドを入れたバッグ)の提示でスムーズに歩いて行くことができる。トイレで意識して排尿をすることはできる。しかし、タイミングが合わないとおむつにしまっていることもあり、自分からトイレに行ったり、サイン(トイレバッグをさわりに行ったり)をさしたりすることはない。

食事(給食)は自分でスプーンやフォークを握って食べようとする気持ちはあるが、手、腕のコントロールがうまくいかず、介助なしでは、こぼしてしまうことが多い。少しの動きを介助することで、スムーズに口まで食物を運ぶことはできる。咀嚼は十分ではなく、奥歯でしっかりと噛むことが少ない。食物形態はきざみ、もしくは一口大でたべきれないものは出してくる。食物の取り込みも苦手で口唇をうまく使えない。

(目標)・自分でTシャツを脱いだり、広げてあるTシャツを着たりすることができる。
・自分でズボン、パンツをはくことができる。

・更衣(1日2回)での取り組み

・持つ位置、持ち方、引っ張る方向などを手をもって、一緒にすることから始める。持つ位置に関しては、途中よりTシャツ、トレーナーとズボンにいちご柄の布テープを貼ってもらい、自分で意識できるようにしたところ、効果があり、目標を達成することが出来ている。昨年度来引き続き、取り組んでいる靴の着脱についても手をとってやり方を知らせるところから、布テープの印をつけて取り組みへとステップアップしている。

学校での定時排泄はほとんどできるようになりました。また、プールから出た直後や外出後に促すとトイレで排泄できることも多くなり、活動の区切りのタイミングに応じることも出来るようになりました。トイレトレーニング初期には排尿前後に笑いが見られ、中期には急に立ちすくんだり、教師に顔を合わせてくるなど、サインとみられることもありました。時々、よごしてしまった時にでも、下着やズボンを着替える時には教師がする動作を予想して、おちついていられるようになりました。

・生活のさまざまな場面で、自分でできることを増やすことを目標にしています。

・トイレの一連の動作では、扉を開ける、閉めること、ズボン、パンツを一人ではくこと、手を洗った後拭くことを練習しています。

・給食時には、給食袋からスプーン、フォークを取り出す。給食ワゴンから配膳台まで牛乳やデザート等を運ぶことと、出来るだけ一人で食べること(質問6)を練習しています。

・衣服等ではジャンパーを一人で脱いで、フックにかける、靴を脱いで2つをそろえて靴箱に入れることを練習しています。

・動作を細かく分けて、スモールステップでできることを増やせるように援助しています。

○食器を持ちこぼさないように食べる。食器の片付けを手順通りにおこなう。

・食器を持ちやすいようにおかずごとに食器を用意する。

・食器やスプーンの持ち方を必要に応じて確認する。

・片付けの見本を示しながら一緒におこなう。

(課題)おかずの種類に関係なくごはんの上に全部乗せて食べようとする。口の中に沢山詰め込んでしまう。

○手洗いと拭き取りを職員と一緒に丁寧に行う。

・手洗い拭き取りの見本を示す。

(課題)教えようとすると、嫌がることが多い、楽しい雰囲気を作り一緒に取り組むことが必要。

○簡単な着替えと衣服をたたむことができる。

・毎日私服と運動着を着替える時間を設定し、継続して取り組む。

(課題)片足立ちが不安定な為、立位での着替えが難しい。

①着替え・・・自ら脱いだり、着たりは難しいです。教員の動き(補助)に協力的な動きはできます。

②排泄・・・定時排泄で「おしっこしてね」に下腹に力を入れ、出せることが多いです。排泄したい。排泄したことのサインは難しいです。

③給食(食事)・・・今年になり、指先がつまむ動きが、上手になってきたので、「手づかみ食べ」をしています。口に入れる動きがスムーズになってきました。水分はコップを持ち連続のみ、ストローのみができます。いきにのみみせることができるので、口に入る量の調節(介助)が教員がしています。スプーンやフォークは持ちやすい大きさにしています。持たせるとすぐおうしたりする動きはやや出ていますが、まだ難しいです。

トイレに行き、便座に座っても排泄に集中することができず、教員と遊ぼうとしたり、すぐに立ち上がろうとしたりしてしまうことが多かったのですが、教員の言葉かけをうけて、じっと座って排泄に集中できるようになりました。また、そのことによりトイレに座っても、出る時にはジッと座る。出ない時はすぐに立とうとするように排泄の意思表示ができるようになりました。

到達目標: 介助量を減らし、自分でできることを増やす。
指導方法: 衣服着脱、トイレ指導、給食指導等、保護者の情報を元に連携して取り組む
衣服、靴着脱・靴はかかとの方にひもをつけて、ひもをひっぱって一人ではけるよう指導。含み裾を方で持たせて反対側の手から袖を通す等
トイレ指導・定時排尿は確立されているので、排便のサインを引き出す。
給食指導・独自の机、食器を使用。左手に丼を押し、右手で特殊スプーンを正しく持って食べることを指導する。

排泄時、自分で拭くことができる。パンツ、ズボンをお腹の上まで引き上げる。～排泄時、補助しながら指導。くつのかかとをふまずにはく。(立ったまま、くつを見ずに足を入れる)～座って、くつを見てはくよう言葉がけ
自分でスキーウェア上下(登下校時の服装)の着脱をする。(集中できず、時間がかかる)～カーテンを引き、刺激の少ない環境で活動する。
手洗いをする。(指先だけをぬらす手洗いの為)～ゆっくり3数えながら手を洗う。

到達目標

- ・ひとりでできる部分を増やす。
自分の持ち物を所定の場所に片付ける
自分でズボンとパンツを下ろしてトイレに座る
一人で落ち着いて食べる

指導方法

- ・所定の場所のそばまで誘導し、そこからはシンボルカラーを目指して着目させ自分で置いたり掛けたりさせる
- ・中腰や前屈みの姿勢は不安定になりやすいので、フック等の位置や大きさを配慮し、補助がいる時は腰の部分を支える。
- ・定時排泄が定着しパンツを着用しているので、トイレに誘導後、ズボンを軽く引っ張って自分で下ろすことを声掛けし、途中でひっかかった時のみ補助するようにして支援を減らしていく。
- ・介護用の食器や滑り止めシートを利用し、自分で持って食べるように支援する。

課題

- ・トイレのマカトンサインを理解し、また尿意の意思表示も出ているので本児からのトイレサインを確立することが課題
- ・水分を飲む時に舌を出さずにコップでのめるようになる。

・着替えについては「介助をなるべく減らす」ことを目標に行いました。脱ぐことについては「これを脱いで」という声かけで、何とか脱げるので、脱いだ物をカゴの中にきちんと入れることを指導した。着ることは頭をいれればよいように渡してあげれば、頭と腕を自分で入れていました。ズボンについては椅子を使って行い足の先だけはくところを見てあげれば、あとは本人が自分で立ってズボンをあげました。トイレについては、お母さんが排尿のあと自分で拭けるようになってほしいということをずっと話されていたので、終わったあとトイレトイレットペーパーを渡し、指導したのですが、そのまま拭かずにペーパーを落とすだけで終わってしまうことがずっと続きました。ある時終わったあと立って拭かせたら成功し、それから一人ですり拭けるようになりました。ただ下着やジャージを上げることが一枚ずつできないので(下着ではなくジャージだけ上げてしまったり)そこは介助が必要でした。自分で拭けるようになったことで私としては随分手がかからなくなったなあという思いがありました。トイレサインは大小ともありました。

食事に関しては一人でスプーンを持ち、口に運ぶことができる。コップを持ち飲むこともできる。食べたいものは指さして教える。排泄に関しては時間を見てトイレへ行く定時排泄が主だが、時には腹部をたたいて尿意を知らせたり、首をふって出ないことを伝えることもある 学習課題・目標は①日常生活での援助を減らし、できることを増やす②排泄の意思表示ができる…指導内容・方法①毎日の生活の中で繰り返し行う②はたらきかけの言葉と動作を組み合わせさせて分かりやすくする。

日常生活指導(身辺自立面)

- 【食事】好きなメニューのときには、最後まで自分で食べることができる。おかずを一口大に切ると、自分ですくって口に運べる。気持ちの状態により、「食べない」と言うことが多い(大人が色々な方法で勧めると、結局食べる)。
- 【食器の片付け】両手でお皿をひとつひとつ運んで食器のカゴに入れることができる。同じ形の、の上に置くことはできない。フォークやスプーンは専用のカゴに入れることができる。
- 【着替え】大人からの声かけや指差しを受けて、洋服の入っているカゴの中からシャツやズボンを取り、自分で着ようとする。ズボンは前後を間違えることが多いが、大体自分ではける。シャツは、すそのところに手を通さず、掴んでかぶるように指導しているが、まだできない。
- 【荷物整理】大人からの声かけや指差しを受けて、ひとつひとつのものを置くことができる。タオルのロープは自分の指を通してフックにかけることができる。
- 【朝の会】カードでその日の予定を知ることができる。自分の行きたいところなどは、小さなカードの束の中から選ぶことができるようになった

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について
1. 教科領域学習

3) 生活単元学習(生活力、生きる力)

「乗り物に乗ってでかけよう」同学年の友達と活動する事が好きで、集団行動がとれる。そのため、電車やバスに乗ることはスムーズに出来た。しかし、車内で興奮する事があるため、教師がそばにいてできるだけ刺激を与えないよう周囲に配慮し、安全な場所に座らせるようにした。

- ・依存心が強く、やってもらつつもりで椅子に座っていつまでも待っていることがある。
- ・人見知りのはげしい面がある。

他児との授業(学年8名)で買い物学習を行った。レジに商品をもっていってお金を出す(500円玉1個とか)ことはできるが、「待つ」ことが難しく、その場で食べたい！と泣いたり、ひっくりかえった、おこったりすることが課題。その他の活動でも「待つ」状態をあえて作り、待つことを経験させている。

- ・各季節の行事の設定→折り紙、切る、はる
- ・おままごと・・・おもちゃの包丁でもぎ野菜を切る
- ・CDをかける
- ・リズム体操

現在は行っておりません。

全てに介助が必要で一人では難しい

- (目)・作品作りの学習が始まる事がわかり制作開始から完成するまでの経験をたくさん積み、作品作りの楽しさを感じる。
- (方)・作品作りが始まる事を伝える道具を提示して、毎回学習の開始を伝えていきます。その際、お気に入りの素材をたくさん用いて作品を完成させる経験をできるだけたくさん積みさせていきます。
- (課)・見本を見せて「ぴりぴり」などT君の好きな擬音語を使いながら説明することで興味を持って取り組めた。粘土の感触を楽しみながら取り組めた。
- ・写真をみることで、学習内容をつかみ、季節行事や校外学習に取り組めた。
 - ・制作はすぐに飽きてしまう事が多い。親指と他の指を合わせて使う(握る)事を練習中です、小ボール、ビー玉大→小、太いペン、スプーンのケースなど使用。

- ・周囲の状況に合わせて気持ちをコントロールし適切な行動をとる。・・・集団行動、SSTにむけた指導などの中で、自制して待つ事が出来るよう言葉かけをし、自分がすべきとき、他の人の行動を見てマネすることなどができるようになってきている。
- ・自分でできることを増やす。・・・木工用ボンドを手にもつてはがることが大好きで、それをきっかけに他の事も頑張り、手指の使い方が向上してきている。

力は極めて少ない

校内バザーでは、売り子になってお客さんに声をかけて呼び込みをして盛り上げ役をしてくれました。本生徒の特徴である、場を盛り上げる事が出来る部分を活かせるような場面設定をするようにしています。
また、行事などの前には見通しをもてるようにパワーポイントなどで写真や図を用いながら活動の流れが少しでも分かるようにしています。(その生徒にも当てはまる事です)

- ・季節毎の行事を楽しみ、興味、関心を広げる事。
 - ・指導者とのやりとりを通して、コミュニケーションの基礎を育むことを目標としている。
 - ・本人に今からすることなど必ず説明し、作業の途中でも進み具合を声掛けしながら進めている。
 - ・選べるようにするため、2つのものを提示し、本人の視線や手が伸びるなど行動で、本人選んでもらう。
- 「触れる」「見る」「嗅ぐ」「味わう」「聴く」等様々な感触を受容するよう働きかける。

- ・活動に集中して、自分の役割を行う事が出来る。
- 役割表の提示
→自分と友達の役割を理解する事

・中学部の頃には、校外歩行に出かける事があった、初めの頃、集団についていくことができないこともあったが、中3の終わりの頃には、かなり長い距離を歩いて集団について行けるようになってきていた。朝のマラソンなどの小さなことの積み重ねであるが、かなり体力がついてきている。
・中3の11月には、2泊3日の修学旅行、高1の11月には1泊2日の宿泊学習があり、集団での宿泊を伴う生活を行った。食事の面、睡眠の面でも特に問題となることなく、普段どおりの生活を送っていたようである。

興味関心の高い物を教材として設定し、本人が主体的に活動できるように工夫する。

到達目標

- ・自分のやりたい事を言葉や発声、動作で表現できるようにする。
- ・楽しみながら様々な活動に参加し、体力を高めていく。

方法

- ・色々なコミュニケーションの手段を提示し、要求を表す気持ちを育てる。
 - ・様々な機会を捉えて、体を動かし、体力とくに筋力、調整力を高めていく。
- ◎生活力、生きる力の学習の中心課題は、コミュニケーション能力を伸ばす事を中心に考えています。(本人なりに欲求を示す、様々なサインを持っている)

様々な活動や行事を通して、たくさんの事を経験したり自分の役割を果たしたりすることと、仲間と一緒に楽しむ事が目標

- ・季節感を感じる活動やそれぞれの活動をしている。

4回にわたり、カップ麺作りをおこなった。麺付きの本人の興味、関心を重視しつつ包装を破る。お湯を沸かす。割り箸を割る。ゴミを捨てる。テーブルを拭く。等の活動を順番に継続的に練習した。回を重ねる毎に次に活動を予想したり、動きにスムーズさが見られるようになった。ふたを2/3だけ開けるなど力の加減をする活動には課題が残った。

食事・・・見守りは必要であるが、食事はスプーンでほぼ自力摂取できる。
更衣・・・袖を通せば自ら腕を伸ばしたり、曲げたり(脱衣)する。
排泄・・・声掛けの誘導にてトイレまで行き、声掛けにて自らズボン、パンツをおろす事が可能。尿意、便意を自ら意志表示することもある。拭くのは職員が行う。
就床・・・声掛けの誘導にて自ら就床する。

学校生活全般において将来に向けて、いろいろな経験をすること、そしてその中で見る力、選ぶ力、関わる力etcいろいろな力を育てています。

図工

- 〈ねらい〉・いろいろな素材に触れる体験を増やし。
- ・手や道具を使って作ったり描いたりする事を楽しむ。
- ・作った物で遊ぶ中で、作る楽しさを感じ、イメージの力を広げる。
- 〈指導内容〉・手指をしっかり使う。
- ・ハサミ(カスターネットバサミ)や糊の使い方に慣れる。
- ・たくさんぐり描きをする。
- 〈課題〉・つくるもの見通しをもつ。
- ・つくる活動に集中する。
- クラス活動(調理・クラスレクレーション・買い物学習・栽培など)
- 〈ねらい〉・友達を意識し、関わりを広げる。
- ・目的を持った活動を通して興味関心を広げる。
- 〈指導内容〉・順番やルールを守って、友達と活動する。
- ・道具の操作性を高める。
- ・生活経験を増やし、生活の中で活かせる力をつける。
- ・友達と楽しく活動する。

(目標)行事単元学習など興味を持って行う事が出来る。
(記録)活動に見通しが持てるように、スライドなどを用いて説明している。本生は、画像などを見る意欲ははずばらしく集中して見ている。校外での食事は、以前は食べない事もあったが、レストランなどでも食べる事ができるようになってきた。校外歩行では、やや長い距離(約3km)でも歩き続けることができた。文化祭のステージ発表では、友達と一緒に同じ場所音楽にのって楽しむことができた。

観察力が鋭く、生きる力に優れている。

親子の関わり、兄弟との関わり、家庭での子どものらしい暖かな生活がしのばれるお子さんです。人への興味関心、親和性が高く、周りの人のすることをよく見て、そこから学んでいます。とくに少しおちついてものごとが捉えられるようになってきた秋頃から生活力の伸長はめざましいです。状況判断から次の場面の見通しがつくようになり、学習の準備を手伝うようになりました。又、朝の会などで友達が上手に返事すると拍手をしたりするようになりました。

目標

- ・全身を使って知恵を働かせて、たっぷり遊ぶ。
- ・日常的な生活動作のやり方を知る。
- ・構内外の様々なもの(こと)を見て、視野を広げる。

活動

- ・外あそび、室内遊び、トランポリン、遊具あそび、季節のあそび
- ・顔ふき、服たたみ、おそうじ、お料理、爪切り、散髪、お誕生会
- ・買い物、外食、学校探検、校外歩行(公園にお散歩)

目標)・学年としての仲間意識を深め、協力、協調して行事や学習に取り組む。

- ・交通機関に落ち着いて乗車する。
- ・色々な食材やをちぎり、自分たちで作ったものをみんなでおいしく食べるなど、調理を楽しむ。
- ・買い物の経験を増やす。

指導方法)・活動の内容が分かりやすいように場面設定を行う。

- ・終わりの見通しがもてるよう工夫する。
- ・見通しや理解が深まるように繰り返し行う。
- ・絵カードや写真カードを使用し、手順ややり方を詳しく提示し、より具体的に活動の見通しを持たせる。

順番を待つことができる。最後まで諦めず取り組む。ゲーム等の時、写真カードを並べて順番を知らせ、友達の時に応援し、待つように促す。

様々な体験をすることで、興味・関心の幅を広げるといふ狙いのもとで行っている。季節の行事にちなんだ活動、調理学習等を行っている。操作性には介助を要するが、リーダーが見本で行なっている様子をよく見ており、手を伸ばしていく様子はよく見られている。

目標:

- ・日程に見通しをもって活動する。
- ・状況をよく見て、どんな行動が相応しいのか考えて行動する。

取り組み:

- ・どの活動をする時も見通しをもてるよう、写真カードを使ったり、見本を提示したりするようにしている。
- ・今すべきことは何かを考える場面を作るようにしている。

- ・コンビニエンスストアやマーケットで自分の欲しい物をかごに入れてレジまで行き、店員にお金を支払うことができる。
- ・お使い学習は、写真カードを手掛かりにして品物を選ぶことができる。

様々な経験をつみ、興味、関心を広げ、道具や器具の扱いに慣れる。校外歩行を通して歩行力を高め、固定遊具遊びを体験することを狙って取り組んできた。

調理ではホットケーキ作り、芋餅作り等を行ったが、一緒に材料をかきまぜたり、ふかした芋の皮を少しむいておくと、自分からつまんでむくことができた。

校外歩行は学校周辺の公園やスーパーに買い物の出かけたりした。歩行力がついてきて、歩く距離ものびてきている。疲れるとしゃがむことはある。常に1人の教員がついて手をつないで歩くようにしている。遊具も補助しながら遊ばせた。

- ・生活に関しては、教師と一緒に活動しておりました。
- ・どちらがよいか選ぶ場面が有れば、興味のある方に手を伸ばすことができました。
- ・簡単な調理であれば、教師と一緒に作ることが出来ました。
- ・いろいろな活動に対して、好きな友達(自分にやさしくしてくれる人)と一緒に活動することができました。(お互いの関わりを深めるのは難しかったです。)
- ・校外学習では、教師と一緒に買い物かごを手に持ち、好きな物を選ぶことができました。また、レジにお金を出すことができました。

〈到達目標〉

- ・日々の「あそび」の活動を通して、物や道具を使う経験を増やす。
- ・お手伝いや当番活動に取り組み、社会性を広げる。
- ・社会的マナーを身に付ける。

〈指導方法〉

- ・中庭あそびでいろいろな道具で遊ぶ。順番を待つ経験をする。
- ・ごみ捨て係や給食のお盆運び係をする。
- ・校外学習で、公共の交通機関を利用したり、買い物、食事などを体験する。

〈課題〉

- ・あそびの種類を増やす。
- ・いろいろな係活動を経験する。
- ・継続して、校外学習などの経験を増やす。

ビデオを使用しての学習が、多くあるが「見る」事がとても好きなので、よく見ていた。面白い場面もよくわかっていて、どの場面での「笑う」というのではなく、たしかに面白そうな所で笑っていた。その他の移動教室の事前学習などの話等については、特に理解が深まったという点はなかった。

生活単元学習(Ⅲ課程)でなく、総合学習(Ⅳ課程)を行っています。

目標

- ・集団での活動を楽しみ、経験及び興味関心を広げること
- ・友達との関わりや場の雰囲気意識して楽しむ
- ・自然に親しみ、季節を感じる

- ・人と関わることが好きで、友達や教師に自分から関わってほしいとする。
- ・好きな活動(乗り物ごっこ、そり遊び、おみこしに乗る)の時は、手を叩いたり、自分でみこしに座りに行ったり、教師の手を持ってその方向に向けるなどして「したい」と伝えてきた。「もうしなくていいな」と思う時は、自分から車イスに行き座ったりした。

(到達目標)

- ・安全をはかりながら、自分で動き、体感することで関心のある物を広げる。
- ・自分から活動に取り組む意欲をもって、活動に取り組む。

(指導方法)

- ・活動を心から楽しみ、「やった」「できた」と思えるように、本当に出来た時には、本気でほめる。

目標

- ・塗る、ちぎる、はるなどして自分から手を動かし、一定時間活動に集中する。
- ・簡単な指示を聞いて活動し始めたり、自分が使いたい物などを相手に伝えるように身振りや発声で表したりする。

指導方法

- ・本児が好む素材(粘土、お花紙、毛糸など)を用いて制作活動に取り組む。
- ・本児が移動しやすい、活動に取り組みやすい場の設定に取り組む。

最近ではパンの学習をした。本人はパンが非常に好きなので提示するだけで強い関心を示す。食パン、あんパン、フランスパンなど様々な種類を用意して大きさや固さの違いを学んだり、トースターで焼いたり、バターやジャムを塗るなどの活動をした。「生活の中でパンがどう扱われているか」という視点で指導を進めている、食べる物に限らず、生活に関わる色々な事象を「本人の経験の幅を広げる」ことを目標にしている。

(到)衛生面、手洗いをして食事に臨む。

(指)必ず声かけをする。

自分から水道で手洗いをするという意識が薄く、必ず声掛けが必要であったが、おしぼりタオルで手をふいてから食に臨もうという意識は、繰り返しの声かけで定着してきた。

到達目標

- ・集団の中で落ち着いて行動する事が出来る。(主に集団で行う単元学習において)
- ・いろいろな触覚・皮膚感覚に慣れる事ができる。(主にクラスで行う小集団での単元学習において)
- ・手指の動きをたかめることができる。(主にクラスで行う小集団での単元学習において)

指導方法

- ・校外学習・校外宿泊学習・校内実習などの事前・事後学習(集団)
- ・お楽しみ会等(集団)
- ・作品作り(クラス)
 - ・感触遊び・・・ふわふわ、ぶよぶよ、チクチク、ベトベト、さらさら、ざらざら、すべすべ
 - ・簡単な道具の操作、にぎる、つまむ、破く

課題

- ・体調によっては、集団の流れに沿って活動できない事がある。
- ・皮膚感覚が過敏なところがあり、(特に顔)、感触遊びを好まない事が多い。
- ・手指の動きが未熟な部分が多く、やろうする気持ちがあってもうまくいかないことがある。

苦しい時や、辛い時を顔をゆがめて、また。とても辛い時は涙を流して訴える。他人にかまってもらいたいという気持ちが強く、職員の手をとって頭に当てたり、顔に当てたりする。知っている人には、ニコッと微笑みかけ、相手の反応を期待しているようなところがある、こういう親しみのあり態度なので、憎まれる事はない。

- ・買い物に行くと、レジや肉、魚売り場などで働いている人を覗き込んで見ている。品物に傷をつけたりしないように気を配っているが、本人も分かっているのかあまりそういった行動は見られなかった。紙幣や硬貨で物が帰る事は認識しているようで、自販機では硬貨を自分で入れようとする。
- ・交通ルールを守る事や危険な場所に対する注意を払う事が難しく、面白がって車や川べりに自ら近寄ったりする事がある。

・ふざけていたずらをしてしまうことが多いが、学習の場や関わる人の接し方に応じて楽しんで活動に取り組む事が出来た。

- ・社会体験学習等の公共の場に出向いたとき、不安がらずによく周囲の様子に興味監視を示し、初めての物や人にも臆することなく笑顔で接し係わりを楽しむ事ができた。一方、目に映る興味のある物に衝動的に向かう事が多いので、本人の好きなグッズをいくつか用意して気持ちをうまくきりかえられるように配慮した。

遊び

- ・集団の中で順番や簡単なルールを理解して遊ぶ事ができる。
- ・ブランコや三輪車、砂遊びやボウリング等遊びの幅を広げる。
- ・自分の簡単な役割を理解して行動する事ができる。

電車や買い物

- ・財布の使用に慣れる。
- ・電車の利用、公共施設の利用、簡単な買い物(レジを通す)の経験を増やす。

調理

- ・楽しみながら作って食べる経験を増やす。

〈目標〉

- ・興味を持って、参加する。
- ・生活の中で出来る事を増やしていく。

〈指導内容・方法〉

- ・友達や教師と関わる中で多くの事を経験する。
- ・行事の見通しを持つ

〈具体体として〉

- ・身だしなみ～洗顔・お化粧
- ・調理～フライ返し等
- ・修学旅行事前

※初めは抵抗があるものの、友達の取り組みを見ているうちに自分もやってみようという気持ちになる。

目標:見通しを持って活動に取り組む

友達と活動を楽しむ

指導:「つくる」をテーマとした栽培、調理、楽器や遊具づくり、手打ちうどんづくり。

写真等を利用した手順の説明。使いやすい道具の工夫、何をするのかわかりやすい大事を選び、提示する等を心がけた上で指導した。

課題:複数回取り組むと、期待を持って活動にのぞめた。調理をする時などitsもは使わないテーブルを使うことで、より期待感を持てた。好きな活動が増えた。

今後は少し先の見通しを持ちつつ活動を楽しめる様にしたい。

〈目標〉

友達と共に、公共施設の利用やレストランでの食事を体験する。

〈指導方法〉

・社会体験学習の時、公共交通機関(電車)を利用する。

・駅の自動券売機で切符の購入を教員と共に行う。

〈課題〉

学校以外の公共施設等で生活体験を積む。

〈内容〉①調理(カレー作り)

〈目標〉作る、食べる活動の楽しさを知り、生活への参加意識を育む。決められた役割を意識して取り組む。

〈指導の方法手立て〉①調理の基本的な約束、用具の扱いをしどうする中で、意欲を育む。グループ内で役割分担をし、繰り返し取り組む。

〈内容〉②校外歩行、公共施設の利用、公共施設の利用「図書館」

〈目標〉社会のルールやマナーを学ぶ

〈指導の方法手立て〉実際の場面で、信号の見方、歩道の歩き方など、繰り返し指導する。ルールやマナーを事前に指導し、実際の場面で確認する。

〈内容〉③製作、装飾

〈内容〉④英語

〈目標〉異文化に触れ、関心を持つ。

〈指導の方法手立て〉歌やゲームなど親しみやすい教材を使用して取り組む。

〈内容〉⑤手、顔洗い学習、歯磨き学習、衛生学習「うがい」

〈目標〉清潔、衛生の大切さを知る学習した内容を、日常生活において確認する。

〈内容〉⑥行事前事前学習

〈内容〉⑦学年集会

〈目標〉友達や教師と楽しく交流する。

〈指導の方法手立て〉ゲーム等を通して、友達との交流を図り、仲間意識を育む。

・簡単な物の使い方は数回すると理解して取り組めることがあった。

・調理実習ではミキサーに興味を持つとスイッチを押して操作できた。

・ハンドミキサーで材料を混ぜ合わせた。

総合的な学習と生活から:麻布大学の教育支援犬との触れ合いで、意思の表出力、コミュニケーション、一緒に活動、お世話をする→満足感、達成感を育てる。

(方法)麻布大学の教育支援犬とスタッフ(ハンドラーさん)が月に3~4回ほどボランティアで来校。ふれあい活動に参加してくれる。他は栽培や四季の変化にふれて発見し体験する活動もふれあい(ものとの)活動としている。

目標・・・教師や友達と一緒に、歩いたり行動したりすることができる。簡単な系の活動ができる。

指導方法・・・校外歩行や遠足、学習発表会などを通して、友達を行動する機会を設定する。教師と一緒に系の仕事に取り組む。

課題・・・人は好きで、みんなの中において、一緒に行動したり、楽しむことはできる、教師と手をつなぐことは出来るが、友達同志ではすぐに手をはなそうとするので、手をつなぐことに慣れていって欲しい。

(ねらい)・季節の行事を通して、その内容の理解を深める。

(指示内容)・七夕集会(七夕飾りを作る、願い事を考える、七夕のお話を聞く他)

・クリスマス集会(クリスマスの飾りを作る、歌を歌う、プレゼントをもらう他)

・お正月集会(凧、こま、獅子舞、もちつきなどを体験する)

・お祭りごっこ(綿飴、お面、しゃてき、だんご、ヨーヨーを作る、お店やさんごっこを楽しむ)

(課題)友達や先生と一緒に色々な活動を楽しむ

自分がやりたいことには、しっかり向かっていける。自分で立ち上がり歩ける様になったことで、行動範囲も広がった。また、歩行ではなく四つ這い姿勢でも好きな場所にどンドン向かって行く。また、興味のあること、好きなことは、集中し、自分なりに工夫し、やり遂げようとする力がある。(プールに入りたのに入れない時、自分で浮き輪を出し、ふくらませて欲しいと要求。早く食事にしたい時、椅子に座り自分でひもを何とかしようとする等々)

・主に行事に向かって、取り組みを繰り返し練習することで、見通しがもてるようになってきている。教師や友達と一緒に楽しく活動できるようになってきている。

(目標)・集会活動や行事などの内容を理解し、見通しを持って積極的に楽しむことができる。
・自分の役割を意識して活動し、達成感を味わうことができる。
(指導方法)・集会や行事などでは、友達と一緒に楽しく場面や、積極的に役割を担う場面を増やしなが、達成感をより多く味わわせる。
・係の仕事や朝の会では、自分の役割を意識し確実に果たす共に、友達とのやり取りを楽しませる。
・説明を聞いたり、周りの生徒の活動を見たりして、活動内容を理解させる。
(評価・課題)・運動会では、ゴールテープを切ることを意識させるなどすると、一生懸命ゴールを目指して歩くことができました。閉会式には応援団生徒と手をつないでもらうきっかけを作ると、閉会式終了まで応援団と一緒に前に出て立ち続けるなど、積極的に参加することができました。
・「トウニーヨコハマ」遠足では、パンフレットやしおりなどで興味を持たせることでタワー展望台から見る景色を楽しむこと以上に、館内を自由散策したり、友達と一緒に人工池で水遊びをしたり、三つ葉広場の草に寝そべり草遊びをしたりするなど、自分から積極的に行動し、身体一杯楽しさを味わうことができあし。
・朝の会では友達から受け取る名札カードを持ちやすい厚手のカードにしたり、両手を使って貼るよう意識づけしたりすることで、黒板に貼り付ける成功率が上がってきました。
・係活動では、バス介助員さんや養護教諭から声をかけてもらう喜びを感じながら、バスカードをポストに入れたり、歯ブラシ袋を保健室まで運んだりする活動を楽しみながら行うことができました。日付板の日付替えは、難しい取り組みでしたが、に付け板をみんなが見える場所に掲げることで、自分の仕事を、みんなにアピールできる思いのもとで、頑張って取り組むことが出来ている様でした。
・「鍛冶ヶ谷南公園」校外歩行では、自由にのびのびと、生きたい所へ行って楽しむことを促されながら、ブランコで揺れたり、虫さがしをしたり、自走式車いすを操作したりして楽しむことができました。斜面を這いつくばりながら登ってローラ滑り台にも挑戦することができました。
・「ヨーグルトあえ」調理では、調理室からワゴンに乗った器具や食材を慣れた操作で教室まで運搬することができました。調理では、手順を聞きながら、教員と一緒にナイフでバナナ、リンゴ、キウイを切りました。桃を切る場面になると椅子からすっと立ち上がってくるなど意欲的に取り組むことができました。
・「いたち川」校外歩行では、鯉に餌をあげたり、腹這いになって流れる水に両手を入れたりして飽きることなく楽しむことができました。暑い中、汗を一杯流して歩き通すことができました。
・「サラダスパゲッティー」調理では、友達との役割分担を通しながら、嬉しそうにレタスを手で千切ったり、ハムを包丁できったりすることができました。フォークを使って大好きなサラダをたくさん食べました。お代わりも3回していました。流し

・図書館・レストラン・買い物など自身の興味関心のある環境では集中し、ふざけたりする場面は、ほとんどありませんでした。また、集中力が持続できなくなった場合でも声かけにより静かに過ごすことが出来る様になりました。
・ゲームや季節行事では、周囲の教員や生徒の声かけなどのお陰もあり、たのしく過ごすことも出来る様になりました。
・この1年間で他害行為が減ってきた為に最近では生徒からも声を掛けられることも多くなり、それに手を振り応える場面も以前に比べ多くなりました。
・年末年始から自宅と学校で始めた歩行訓練の成果があつてか、全身持久力や筋力がアップし、体力的な余裕が気持ちにも余裕を与えています。その余裕から友達との関わりを少しずつもてるようになってきています。
・本校の隣にある赤塚公園以外にも歩いて行きましたが、途中で疲れて座り込む様なこともなく、最後まで歩き通しました。側溝症により本人にとって苦しいはずの長い歩行時間も友達や教員からの声かけなどに応えるなどして、楽しみながら最後まで乗り切りました。特に「木の実拾い」等の採集活動の時などは、土・木・葉っぱなどの感触を肌で感じ楽しむことができました。

(目標)・生活上、必要な習慣や技能を身につける。
(指導方法)・生活を豊かにする為に、多くの経験をさせる。(買い物ごっこ、栽培活動、季節の行事など)
・あいさつを意識させる。
・身近な人と関わりを持つ楽しさを味わわせる。(他学年や地域の人との交流)(リズム対応や造形遊び)
(課題)・生活を豊かにする多くの経験をさせる。(栽培活動・掃除、買い物ごっこ、季節の行事)
・他学年や地域の人との交流を通して友達と仲良く過ごすと共に色々な経験をする。

どの学習にも意欲的に参加できる。周りの流れを理解し、状況を把握し、自分から動く。